



Q 命や生活を守るために大切なことは？

大隅肝属地区消防組合
うちやま ともみみ
内山 智文 消防長に伺いました



台風や地震などの自然災害は、時として想像を超える力で襲ってきます。しかし日頃から防災対策をしておくことで、被害を少なくすることはできます。

災害による被害をできるだけ少なくするためには、一人ひとりが自ら取り組む「自助」、地域や身近にいる人同士が助け合って取り組む「共助」、国や地方公共団体などが取り組む「公助」の力が重要です。

その中でも特に重要になるのは「自助」の力で、自らの命は自らが守る意識を持つことが大切です。「自分の命を守る」ということは、災害の状況を把握して「災害から確実に逃げる」ということです。自分が助からないとどのような対策をしても意味がありません。「自助」に取り組むためには、まず、災害に備え自宅の安全対策をしておくとともに、屋外においても災害に遭遇したときの身の安全の守り方を知っておくことが必要です。また、身の安全を確保し、生き延びていくためには、水や食料などの備えをしておくことも必要です。

防災対策には、「絶対に大丈夫」というものはありません。一人ひとりが平時からハザードマップなどを確認することで自宅の災害リスクを認識し、周りにどのような危険が及ぶのかを考え、その被害を最小限に抑えるために必要な対策を講じることが重要となります。災害を目撃したり、救助を要請したりする場合はためらわず「119」番へ、「慌てず」「はっきり」「正確に」通報してください。

A 自分の命は自分で守る「自助」の力が大切です



防災さんぽで避難経路をチェック



実際の避難経路を歩くなど「防災さんぽ」に取り組んでみましょう。避難所までの経路を複数知っておくことも避難に有効です。

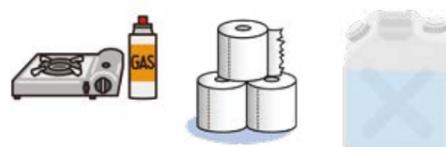
非常持出品や備蓄品を準備しよう

● 非常持出品



←家族構成に合わせた準備も必要です

● 備蓄品



非常時に持ち出すべきものをあらかじめリュックサックに詰めておき、いつでもすぐに持ち出せるようにしておきましょう。

- 非常食 ○飲料水 ○常備薬・お薬手帳
- 貴重品（通帳・保険証・印鑑 など）
- 現金 ○筆記用具 ○携帯電話・充電器
- 洗面道具 ○衣類 など

災害により水道や電気が止まった場合に備えて、自宅や避難所で過ごすための必要最低限の備蓄をしましょう。

- カセットコンロ・カセットボンベ
- ポリタンク ○ラップ
- トイレトペーパー
- 紙皿・紙コップ・割りばし など

使いながら備蓄する ローリングストック法で常時保存

普段から少し多めに食品や加工品を買っておき、使った分だけ新しく買い足し、常に一定の量を備蓄しておく方法です。（飲料水、レトルト食品、缶詰など）



● 災救マップのアクセス方法



※かのやライフからも閲覧可能



○各避難所の電気・水道などライフラインの状況を確認できます。

○マップ上の避難所アイコンをクリックすることにより、各避難所における避難者数を確認できます。

○マップ上の避難所アイコンをクリックすることにより、各避難所の開設・混雑状況を確認できます。

● 災救マップの主な機能

○マップ上で、各避難所の開設・混雑状況を確認できます。



● 災救マップとは

スマートフォンやパソコン等で避難所の位置、避難所の開設・閉鎖の状況、開設している避難所の混雑状況等を確認することができます。

鹿屋市防災マップを読もう



「危険を確認」、「情報を確認」、「避難の準備」、「早めの避難」など、災害時にとるべき行動を考え防災・減災に役立てましょう。

災害に備える 03

これから梅雨や台風の出水期を迎えます。災害による被害を減らすため、住んでいる地域や家族構成、生活パターンなどの様々な点を考慮し、自らの備えを始めましょう。

災害に備えるために、今始めること

さいきゅう 災救マップを使って避難所の情報を知ろう